

目次

- ・ ウエスティングハウス社とアメリカ合衆国の思い出 (1)中谷 博 (pp.1-6)
- ・ 第12回 京機会 Music Café『南国の太陽と海が恋しい冬。そうだ、ハワイへ行こう』
.....北野幸彦 (pp.7-8)
- ・ 京機カフェ：産業歴史探訪～52代続く姫路の伝統工芸「明珍」、国宝姫路城の桜、
播磨の酒蔵見学コース～.....長野寛之 (pp.9-10)



平等院の藤棚

©京都を歩くアルバム <http://kyoto-albumwalking2.cocolog-nifty.com/>

ウエスティングハウス社とアメリカ合衆国の思い出 (1)

中谷 博 (S34/1959卒)



昨年、東芝の子会社としてのウエスティングハウス社 (Westinghouse Electric Company) が1兆円を超える巨大な損失を計上したことにより、東芝は海外での原子力事業からの撤退を表明したとの報道があった。福島原発事故後、アメリカを初めとして原発に対する規制が厳しくなったことや、現在ジョージア州とサウスカロライナ州で各2基建設中の原発の大幅な工事遅延があり、建設子会社S&Wを買収したことによる損失が特に大きいようである。海外での原発事業は、国内と違って、メーカー側のリスクが非常に

大きいと言われている。総合電機メーカーとしてのウエスティングハウス社（Westinghouse Electric Corporation）は、1997年に、すでにその幕を閉じているが、アメリカを代表する巨大企業でも、経営の悪化により消滅したが、東芝も一時は会社存亡の危機があった訳である。（現在は、原子力事業の売却や債務保証の支払いも終わり、資本増強で危機を脱出したとのことである。）

私の勤務していた三菱電機は、第二次世界大戦中の中断はあったが、長年ウエスティングハウス社と総合的な技術提携を結んでいたのと、私自身が、1962年9月から1963年10月まで約一年間、ウエスティングハウス社で研修生として過ごしたこともあり、その後のウエスティングハウス社の動向には関心があった。現在のアメリカは、トランプが第45代大統領になり、アメリカ第一の内向き指向が非常に強く、先が不透明であるが、一方、私が滞在したほぼ半世紀前のアメリカは、第35代大統領ジョン F ケネディーの時代で、豊かな生活を謳歌しているように見えた。また、ケネディー大統領に対する国民の信頼も高かったと思う。ただし、旧ソ連とは冷戦の時代で、1962年10月には、フルシチョフ第一書記のキューバへの核持ち込みによる「キューバ危機」が発生して、しばらく緊迫した時期があった。

最近、私がアメリカに滞在していた時に撮った約800枚のスライド写真を整理のためDVDに変換したので、その写真を見ながら、ほぼ半世紀前のウエスティングハウス社とアメリカの様子を振り返ったのがこの手記である。

1. 総合電機メーカーとしてのウエスティングハウス社消滅までの歩み

1886年に発明家で実業家のジョージ ウエスティングハウスが創業したウエスティングハウス社は、電気、機械関係を中心に軍事用、民生用双方で幅広く事業を展開し、1950年以降は、加圧水型原子炉（PWR）の開発、製造で独占的地位を占めていた。しかし、1980年以降になると、中心事業の売却、分離が相次ぐようになった。1988年には、エレベーター、エスカレーター事業をシンドラーグループに売却、同じく1988年に電力事業の中心の創業期の工場であったイーストピッツバーグ工場が閉鎖された。1994年、ウエスティングハウス社は電力事業をイートンコーポレーションに売却し、1997年には、原子力発電以外の発電部門をドイツのシーメンス社に売却した。社名もCBSコーポレーションに変更して、GEと共にアメリカを代表する総合電機メーカーとしてのウエスティングハウス社

(Westinghouse Electric Corporation) が幕を閉じることになった。最後まで残っていた商業用原子力部門 (Westinghouse Electric Company) も1998年、英国の核燃料会社に売却され、さらに2005年には東芝が予想を超える約6000億円の高額で買収したいきさつがある。

2. 私とウエスティングハウス社との出会い

1960年、私が三菱電機に入社して、名古屋製作所配属になり、エレベーターやエスカレーターを担当する昇降機部門に配属された。入社して2年後、三菱電機とウエスティングハウス社の契約の中に、若手技術者2人の研修派遣制度があることを知らされた。この研修は、具体的な特定の技術を習得するのが目的ではなく、ウエスティングハウス社とアメリカという国について広範な見聞が主目的ということであった。この制度の対象は、入社2年の大卒技術者であった。物は試しと、一応試験を受けたところ、たまたま合格して、ウエスティングハウス社への派遣が決まった。

なかなか出発の時期が決まらず、やきもきしていたところ、ようやく出発が1962年9月に決った。いろいろ準備することが多く、落ち着いて会社の仕事があり出来なかったのは残念なことであった。パスポートとF1ビザの取得のため、愛知県庁や名古屋のアメリカ領事館へ行った。領事館では、ウエスティングハウス社からの要請で、私の英語の能力テストも実施された。英語のテストは、読解力、書く力、話す力、聞く力の四つのカテゴリーについて評価することを求められていたようである。さらに、名古屋大学で、胸部レントゲン撮影、名古屋港の検査機関で種痘接種なども行われた。その他、出発前に、三菱電機の主だった工場を訪問して、製造している機器に関する概略の情報を得ることも必要だった。

1962年9月、羽田空港からJAL ダグラスDC8旅客機でアメリカへ出発した。ダグラスDC8旅客機は、当時では最新鋭のジェット旅客機であった (写真1.1)。現在は、アメリカ本土に直通で飛行するのが当たり前になっているが、当時は、ハワイのホノルル経由でサンフランシスコ空港まで飛行する必要があった。入国審査は、ハワイのホノルル空港で行われた。翌朝、サンフランシスコ空港に到着し、アメリカ本土に第一歩を踏み入れた。サンフランシスコ空港からは、タクシーで、急な坂道と古めかしい建物が立ち並ぶ街を眺めながら宿泊するビクトリアホテルへ向かった。



写真1.1



写真1.2

翌朝、サンフランシスコ空港では、多くの会社の旅客機を見ることが出来たが、中でも目を引いたのが、現在はアメリカン航空に吸収されて消滅したTWA（Transworld Airline）の旅客機で尾翼の鮮やかなTWAの赤い文字が、非常に印象的であった（写真1.2）。パンアメリカン航空の旅客機も見受けられた。（当時は、TWA航空の黄金期であったが、その後、各航空会社が盛衰を繰り返して、今日に至っている。パンアメリカン航空も、当時海外空路で活躍していたが、航空自由化政策と経営の悪化で1991年消滅した。）

今度は、サンフランシスコ空港からアメリカン航空の旅客機でピッツバーグ空港へ飛ぶことになったが、ボーディングブリッジなるものを見たのはこの時が初めてで、タラップを利用しない乗り方があるのは驚きであった。サンフランシスコ空港を飛び立ってから、広大なアメリカ本土を眼下に眺めながら数時間のフライトでピッツバーグ空港に降り立った。（写真1.3）は空港内で、山下駐在員ご夫妻と、私と同行の手代木君を撮影したものです。ピッツハーグ空港から、山下駐在員の車（クライスラー社のプリマスフューリー）に同乗してピッツバーグへ向かった。当時日本では、新しく出来た名神高速道路で車の高速運転によるエンジ



写真1.3 山下駐在員ご夫妻（左側）と手代木君（右側）

ントラブルが相次いでいたこともあり、アメリカのハイウェイを時速100kmのスピードで走行するのは、非常に快適であった。

ピッツバーグは、ウエスティングハウス社発祥のイーストピッツバーグ工場があり、ウエスティングハウス社の本拠であった。一旦、ピッツバーグに立ち寄り、ペンリンカーンホテルに宿泊したが、引き続いてニューヨークのウエスティングハウス社の国際関係部門に出頭する必要があった。

3. 初めてのニューヨーク

翌日、山下駐在員と共にピッツバーグ空港を出発して、ニューヨークのアイドルワイルド インターナショナル空港（現在のケネディー空港）へ到着した。空港からは、リムジンでニューヨークのマンハッタンの中心部へ向かった。夕刻のマンハッタンは、夕日により映し出される摩天楼のシルエットが一際美しく、すばらしい眺めであった。ニューヨークの高層ビルの中でも、特にエンパイアステートビルが聳え立ち、アールデコのデザインで有名なクライスラービルは、夕暮れの街で一際目立って見えた（写真1.4）（写真1.5）。早速夕食後、夜のエンパイアステートビルの最上階（102階）にエレベーターで昇った。確か90階位で、乗り継ぐ必要があった。102階の展望台からのマンハッタンの夜景は非常に美しく、コダックのスライドフィルムを使ってカメラのシャッターを切ったが、後に仕上がったスライド写真の出来栄はあまり良くなかった。五番街のウインドーショッピングを楽しみながら、初めてのニューヨークの夜を過ごすことが出来た。タイムズスクエア近くの42streetに面したディクシーホテル（Dixie Hotel）に泊まった。（現在このホテルはもう営業していない）



写真1.4



写真1.5

翌朝、ウォールストリートにあった、ウエスティングハウス社の国際部門へ駐在員共に出頭した。（その直後、国際部門はタイムズスクエア近くのPANAMビルに引っ越す）研修生の受け入れを担当する、マネージャーのフェセルマイヤーさんに面会した。フェセルマイヤーさんはウエスティングハウス社で初めてあった人で、研修の終り頃に何度も会うことになる。ウエスティングハウス社やアメリカ滞在での注意事項の説明があったが、説明が終わった後で、説明の内容を英語で復唱するように言われたのには少々驚いた。

国際部門での挨拶を終えて、ウォールストリートの金融街を散歩して、途中でニューヨーク証券取引所やTrinity Churchなどを見学した（写真1.6）。山下駐在員の計らいで、ニューヨークにある国連本部のガイドツアーによる総会場を初め安全保障理事会、経済社会理事会の各会議場の見学をした（写真1.7）（写真1.8）。



写真1.6



写真1.7



写真1.8

マンハッタンを一周する遊覧船で、ハドソン川やイースト川から眺めたマンハッタンの高層ビル群の景観を満喫することが出来た（写真1.9）（写真1.10）。さらに、ロックフェラーセンターの見学、ラジオシティミュージックホールでの観劇など、初めてのニューヨークの楽しい思い出となっている（写真1.11）。



写真1.9



写真1.10



写真1.11

（次号に続く）

第12回 京機会 Music Café

『南国の太陽と海が恋しい冬。そうだ、ハワイへ行こう』
～ハワイアン&フラ in 大阪ロイヤルホース～

北野幸彦（S56/1981卒）

日時：2018年2月25日（日）11:30～

場所：大阪梅田 ROYAL HORSE

参加人数：12名

第12回のミュージックカフェは、ハワイアン。まだまだ外は厳しい寒さの中、常夏の南国ムードをたっぷり満喫しました。



今回も、にぎやかなミュージックカフェになりました。フラのみなさんと一緒に記念撮影。京机会の仲間で、ハワイ旅行に来たみたい。。。な気分になりました。



アロハ～ ゆーらゆーら穏やかな波間にゆられている気分



今回の主役「吉川滉一とアロハスイングスターズ」 スチール・ギターが南国の風を運んでくれます。昭和26年結成。オリジナルメンバーそのままで、66周年だそうです。



いや～ 癒やされますう～



こんなに目の前でフラを堪能しました。



いつもながら最前列プレミアム席に陣取って、フラを満喫する京機会のメンバー。



京機会のテーブルまできてくださいました、KAOさん。男性は浮足立って見とれるばかり。奥様方は、気さくに会話を楽しんでおられました。「ハワイに住んでおられるの?」「いえいえ、玉造です。」「ええっつ、ほんとですか!?!」

京機カフェ：産業歴史探訪

～52代続く姫路の伝統工芸「明珍」、国宝姫路城の桜、播磨の酒蔵見学コース～

長野寛之（S53/1978卒）

1. 日時

3月31日（土曜日）13時～19時30分

2. 見学スケジュール

- ・ 13:00 姫路駅 中央改札口の外で集合（新快速沿線火災で大幅遅延）
- ・ 13:20-13:40 タクシー移動
- ・ 13:30-14:15 明珍本舗見学 <http://myochinhonpo.jp/>
〒670-0871 兵庫県姫路市伊伝居上ノ町112
- ・ 14:15-14:22 バス移動 神姫バス 野里一姫路城大手門前
- ・ 14:30-16:00 姫路城見学 <http://www.city.himeji.lg.jp/guide/castle/>（@1000円）
- ・ 16:10-16:30 タクシー移動
- ・ 16:30-17:15 灘菊酒造酒蔵見学 <http://www.nadagiku.co.jp/>
- ・ 17:20-19:30 灘菊前蔵にて懇親会
- ・ 解散 タクシーで姫路駅まで

3. 参加者： 12名

4. 見学先報告

4-1 明珍本舗

52代続く鍛冶屋、元々は甲冑鍛冶。現在 宗主宗理氏（火箸、風鈴）、次男宗裕氏（刀鍛冶）、三男敬三氏（火箸、風鈴）。当日は、火箸鍛造実演、玉鋼を使った風鈴の音色鑑賞、鍛造工程の説明を受けた。当方も専門家が多く、技術論議で盛り上がった。



4-2 国宝姫路城

当日は桜が満開で多くの観光客が来訪。天守閣は1時間待ちとなり、残念ながら断念。比較的空いていた西の丸を見学した。西の丸からの桜を従えた天守閣は絶景であった。瓦の構造について議論が盛り上がった。



4-3 灘菊酒造

灘菊では社長自らが酒蔵を案内。昔の酒造りについて説明を受けた。播磨は日本で最も古い清酒の産地。現在は昔のように蔵に住み着いた酵母で酒造りをするのではなく、管理された酵母菌をブレンドする方式に変更されている。これにより日本酒はおいしくなった。その後は、酒蔵を改装したレストラン前蔵で、酒蔵の大吟醸で乾杯、様々な日本酒を堪能した。

